

令和8年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	55	学校名	竜ヶ崎南高等学校				課程	全日制		学校長名	鈴木 恒一					
教頭名	明珍 直樹								事務長名	石引 奈緒美						
教職員数	教諭	20	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	3	実習助手	1	事務職員	2	技術職員等	4	計	35
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	28	33	40	32	41	33			109	98	7				

2 目指す学校像

「すべての教育活動は生徒のために」を基本理念として、一人一人の生徒を大切にしながら、地域や社会の要望に応えられる、誠実で自主的精神に充ちた、創造性豊かな「将来社会に貢献できる人材」を育成する学校。

3 三つの方針(スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	地域や社会の要望に応え、誠実で自主的精神と創造性豊かな感性を備えた社会に貢献できる人材を育てる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	ICT 環境を活用しながら、探究的な学びや体験的な学びを重視した教育課程の編成と実施により、生徒の主体性を引き出し、基礎学力の向上と個々の適性に応じた進路の実現を目指す。
入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	社会規範に基づく生活を送り、他者の存在を尊重し様々な活動を通して自らの可能性を伸ばそうと努力し、将来地域に貢献したいと強い意欲のある生徒を求める。

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	中学校段階からの基礎知識の定着に課題が見られる。指示された学習への取り組み姿勢は良いが、発展的内容へ挑戦する積極性や知識を更に深める活動をしていく態度を養う必要がある。	基礎的な知識の定着を図り、それらを活用して学習を進めることができるよう、主体的な学習態度を身に付けさせる工夫をする。多様な学力の生徒に対応できる授業形態を工夫する。
進路指導	就職指導など、進路実現に向けた指導には前向きに取り組むが、自分の将来について中長期的な展望を持ち主体的に行動することに消極的である。	全教科・全領域を通じ、体験活動等を取り入れつつ、自己の生き方・在り方、キャリア形成についての考えを深めさせる。
生徒指導	基本的な生活習慣の定着、服装容儀という点では大きな改善が見られる。特別指導件数も減少し、内容も軽微なものとなっている。	保護者や地域社会・関係各機関と連携しながら指導の充実を図り「18歳成人」、社会に対応できる生徒の活動が必要となっている。
特別活動	生徒会本部役員への活動への意欲は高まっているが、生徒全体の学校行事への積極的な取組に繋がるまでには時間を要している。	生徒の自発的・自主的活動を促すために、キャリアパスポートを活用した学校行事への取組を図る。そのため、支援の仕方に工夫が必要である。学校全体として行事を活性化するための組織的な取組が必要である。
働き方改革	学級減にともない年々職員数が減少し、1人当たりの業務負担が増え、勤務時間超過の傾向に拍車がかかることが予想される。定時退勤日の拡充や完全退勤時間の遵守を促すとともに、校務のDX化や情報共有の促進を図り、働きやすい職場環境の構築をしていくことが必要である。	ベテラン教員と若手教員とでチームを形成し、仕事上のスキルを継承し、より一層のICT活用の浸透を図る必要がある。勤怠支援システムの「時間外勤務時間」、「実労働時間の作業区分」を日々入力・確認し、自己の働き方を客観的に意識することが必要である。

5 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 自発的学習の習慣化を図り、学力の向上に努める。 2 一人一人の能力適性に応じた進路指導を推進し、個に応じた進路実現を図る。 3 規則正しい生活の実践を通して、自律的な生活習慣の確立をめざす。 4 体育活動や文化活動を奨励し、強健な心身と豊かな情操の育成に努める。 5 勤労や創造の喜びを体験させ、奉仕の心と望ましい勤労観の育成に努める。 6 自己変容や成長を認識し将来を考えることができるように、キャリアパスポートを活用したキャリア教育を充実させる。 7 ICT活用等による業務の軽減と効率化により、教職員の心身の余裕を生み出し、生徒と向き合う時間に活かせるよう働き方改革を推進する。 8 通級指導実施のための校内体制の強化と、特別な教育的支援を必要とする生徒の理解促進と指導法の向上を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、多様な生徒一人一人の資質・能力の育成を図る。	① 授業改善を常に図りながら、生徒による授業評価を基に授業満足度 3.3 以上にする。 ② 単元全体を通して、ICT 環境を活用しながら、個別学習、協働学習、全体学習などの多様な学習形態を効果的に組み合わせ、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる。 ③ 探究的な学習や体験活動等を通じ、持続可能な社会の創り手となることができるような資質・能力を育成し、生徒が自分たちで考え、探究する力を高める。
2 キャリア教育の充実と進路先の開拓を推進し、全ての生徒の進路決定を図る。	④ 人生や社会を見つめる態度を養い、生徒一人一人の興味や適性に応じた進路選択を支援し、卒業予定者全員の進路決定を目指す。
3 基本的な生活習慣を身に付け「18 歳成人」社会に対応した行動がとれることを目指して生徒の自立を支援していく。	⑤ 制服の着こなしや挨拶の励行を徹底し、社会人としてのマナーを意識させる。 時間や期限を守って生活する習慣を身に付け、社会人としての責任や信頼を自覚させる。 自ら環境を整え、他人を思いやる精神を学び、いじめのない環境を維持していく。
4 キャリアパスポートを活用して学校行事における生徒の達成感や成就感を養う。特別活動全般の参加の機会を増やし、内容の充実を図る。	⑥ HR等でキャリアパスポートを活用し、生徒自らが学びを振り返り、将来を見通す機会を増やす。 ⑦ 特別活動への参加の機会を増やし、参加生徒自身の満足度や達成感を高めることを目指す。
5 生活体験や社会体験を通して、社会の変化に適切に対応できる力を育成する。	⑧ 学校内外での環境美化や地域社会での体験活動・ボランティアを奨励し、道徳的実践力の育成を図り、社会で生きる力を育む。
6 地域への働きかけを充実させ、地域に支えられる学校、地域を支える人材を育てる学校を目指す。	⑨ 保護者との連絡・連携に努め、教育活動への理解を求める。 ⑩ 地域社会や近隣市町村の小中学校との連携に努め、地域になくてはならない学校作りを目指す。
7 効率的な業務の遂行と労働時間の短縮を目指し、労働の質を高める。	⑪ 校務支援システムの活用と、業務の電子化による効率化を更に進める。 ⑫ 部活動活動方針に沿った指導体制を確立し、適切な休養と活動時間の確保に努めることで、効率的な活動と成果を目指す。 ⑬ 毎日の「勤怠管理支援システム」利用を徹底し、在校時間、作業区分を各自が把握し、働き方改革への意識改革を図る。
8 通級指導実施のための校内体制の強化と、特別な教育的支援を必要とする生徒の理解促進と指導法の向上	⑭ 校内委員会で情報交換を図り、通級指導の効果的な指導法を共有する。 ⑮ 生徒一人一人の教育的ニーズ・実態を把握し、合理的配慮や個別的教育支援計画及び指導計画を作成し、実態に応じた指導・評価の確立を目指す。